少納言信西入道藤原通憲墓卿抄

全

藤原良基卿抄

132
46
1

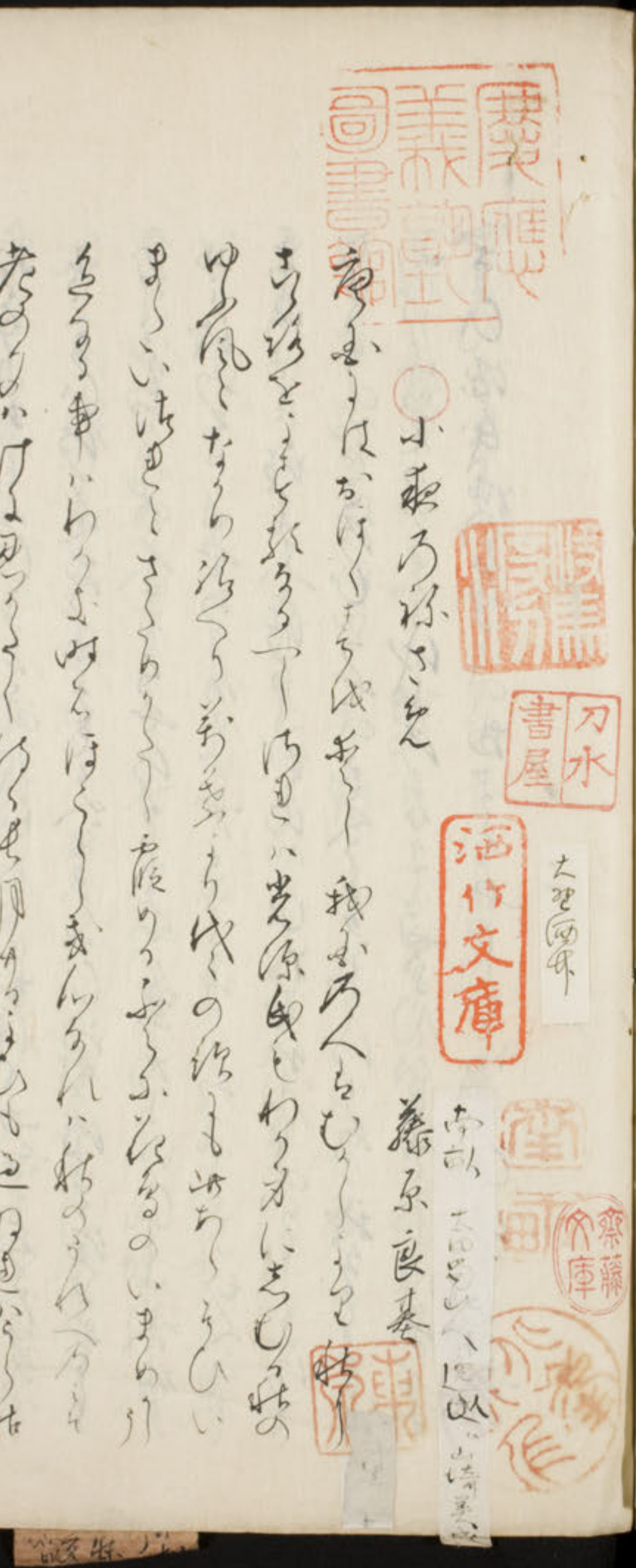
山中美成、太田南畝旧蔵本

齊藤長秋

東京都立中央図書館蔵
刀水書屋
滝竹文庫
齊藤文庫

小倉百人一首

藤原良経



山崎美成、太田南畝旧蔵本

齋藤長秋

東京都立中央図書館蔵

○小野乃小さゝ

藤原良基

刀水書屋
大理図書
滝竹
齋藤文庫
北海道大学図書

歌ハ銘々はの處にてをかしきひりくとしの切に今
多くまてぬるのさうし物語て人は此中すこひ歌とさうらて
もぬまきひを今にたるひもしに知りしを物うり我証
をとつりつさい多くの命にたつくハなしいさゝしいける心にて
歌を物語さしき物く人よのなひうちつきにへなよ
ぬきりあらはひよきのしかりおほくやさもくそ紀歌にも
そこうひ物の友にのかまたも人をまかひ詩を作る源と出しし
なくさ侍しの人もくそゐらく紫式部といひし人ハ切たし
やう此つりうせおりかりやとらくわりくうりもんのこと
きぬしとめるもれくれけりしたおれもとのことうにこと
あくりのたところむらさきのよくすとりゆるめハ我あるくりと
がしく覚ゆるり此の侍りてやまとの詩とし物事のこと
さひ源氏物語中りのあまく毎りくいうさひ物も老の

やまひとをもうけゆうかなゑさかはり筆とすゝくひれ此よ
うかり語をわうさを蛤の目すてさゝひ物語の事しるふ
けりしりしねハんのわおさ侍よまのやしふかゝあるとなるは
事のかし紫式部はりて物をひつすゐる古今集の中にのは
いまゝあさし先さら事ハありけるまして日本紀古今集
あるハいましい此もなかりし世にこひと紫式部の説法して
淡き式部のこゝろをむらひおかるてゆうおきのはりまえく
事かもあひなる伎師いひし人此紀の神代より
紀のかみ詠を此たしけ歌にえとかひしゝの万葉のむと
さらえくら三首后を詠みてふともみすけり詠とらくへいり
光源氏をはしらいゝりし田舎人ある出すま式は諸て
むかしさそれ難説そもおわりくあうけるしるのゆうち元の
まてきりかり事ハありて約束ありゆさハけさひとつうつ

事なりとて俳諧の附たさけしことなりて一座を給り
えらるゝ事なれは其ことはりをしらさるものも多かりし
しかるに此源氏物語をよむものにあらされは誹諧も連歌も
きかれぬとて後京極摂政殿の御代より
くたり近年の物まなひも故さら源氏をよみて
にかり世継物語も連歌も此人の中にも知恵ぬる
なる事いふものも此事はつゝるゝ事に嫁候家
やるもいへるへしはいつくはなきされはわされ
昔おもひの書物のさかり後勢の代にもけしくいなは
勢猶しるしいくさまは源氏物語にて世にもしらて
さる事はこれを拙作らは連歌まつ源氏の物をしらねは
さもこれを讀むとんおもてなる人のことは紫式部の源氏
白氏の文集京よりへ移すそれそれ後京極殿

けり後撰集にも源氏にあかぬ家なんは初其利の詞も明と
らんまて裡衣のうらを源氏より讀みたかたく人なし
歌も詞も物語りのうらさくは小野篁院の御作れ
ま也何そいへる定家卿の風葉にもさるへしとくゆるすなれ
さも歌さへ妖えぬまてありにもかゝらぬ事のありつれは
ましく連歌といふは歌といへとも心にかなふりをもいふきれ
さらんも源氏は昔の作めにそ代書をつくりて之は家集
連歌もなくえは人の名まえもわかるへきなきなり
名ところや後鳥羽院の源氏をはしめて連歌の上手とは摂政のりまれ
前に名付られわかき連歌なくは慶の前にて名付けれ
紫式部か柏木の女三も其をもてさらんの没後のすに侍れ
門しき源氏をよみ百のかけのかさも定家卿は千年そ
あまりのすくりけれは家のもまなひあけしは宗祇

ほくろハむつかしきものにて連歌をぬきせられたる所
後鳥羽院の御代には弁内侍なといひし女房
連歌しけくいたしさき事ありここにも地下にのこ
歌こゝふなれハ古き連歌のてにをはすこし
あかいふ人の中におもしろき句あまたありけるか
ましはさの為め一句をえらひて後の世に書とゞめし
たるすにハ後の人の読る様をいましめしける所
うこの連歌をいたしし神のおもむきけれ
いものをも詞たん人の連歌とせられたるへき
さくましき人の判者詞といふ事も丈夫の心によむ事
にかゝりあれといふしく其後の後鳥羽院の御時には
事はのうちも判の詞ハおほくの連歌の先後おもしろく
かしこき人に申ていまさて詞の後に入られたるに

歌にハみちのあそひより始りて日をおくりてもまたれける事
先ハきかり当りたるも詞ちの人のむねにハおしてハ八十となりて
判の詞ちはいさきよきゆへにいひあらはされたる事とせむとこ
基俊なとは詞花にもおかしくおほえけるかゆへにか中に仕しき連歌
判の多くハ判とともにしらるまての学問ありて人をもとのはかり
判も詞とのゝ詞をもゆるまてにいひ給はへきことも
いかに歌ハよくしらひたるかたの判すへき事なかりける物
まくいふらひたる事の判にて判の詞いひて申しまいらせ候これ
あるにも連歌する事おほかれとあまりむかしの作あつめは
ゆかしきふうの中にいつるたるをみ出しけるにもとの心をもちて
昔の歌のよしあしけるを出すへきこそしくてそれかつらしたもの
かしえゆゑされしむかしこのうたれ事の一書とハいまた
此のいさゝかなるわかきことのせたるやうにいはんとてしかしのちの世の作者も

我国なりける年もおの頃はいまだけんりうといふ事も
あるこゝに茶湯の足もくひらし御世御せいにもしらね
茶のひろまりてさらに口をたゝきもなき時はむらむらは色
ころに数寄もおもひよりゆくしけ井の中の蛙の如くぞ
去ころ天下殿様にもおもひよらざりしより大賄ひと云ふ名の
一服の茶をのみ終りしかた人とて茶ばかりなきのみ二三
すき人もさらにその名あれどおもしろき事とやかくやひろまりて
ちかきころ事は漸うふみ見る人もなきやあらたまりて此のごとし
なれりのこる人たちもかりわけるまへの数奇者のかはらぬ心
やあらぬひとおほふこと急ぎまして誠にひろく人々も
其元もたとへけるその人へところとにいて詮つきもあらまし
今くも見ゆることなりけるかな世のことのいとも悲しく
況や中にも医者部湯をいひし人々はある勝藻大臣の

数寄のうちにハ御きゝ合せしとも候らで下の茶道にて
なかなか湯部湯古例では武家衆の事とも哀く我ゆり
まゝ茶湯くはしくひきまはし落え人もなし今いやしく数
寄ねよりまて何かとつらきも論合の太政いとはかりし時
日本国の事ともしらひやへ立ちせる清書地下のくらき
さてもし人もんやさしからさと世にしられいなりの人をまつ
ゆくして侍る故の隠頃まくもゆくくしれとさしたる人を
其の事ハ御茶湯のくもなくとハ後々しの人しる事や
まうけ世に広らくわさまへ去年こそやすく心をからむし
それハありしにも大事すぐれてや侍くつきもむしろり思ひ
其もをかけつゝ聖王とも申し御代ともなく下ゝ今と
しかしうかりね陪時にかはらせ事のこまかくゆかり
大かく後代にまかす者の業を見てまたそみるまで又りさうとくや

御ハなからよしとて此代ゆらんぬる事ハゆるへきたらうつらぬ
おりしかとも云ひけらる事なかりしおりりめせとも
半まうかる事ふかくはるゝのらんまへ人をもうちてかも
とまらぬ給ひてやうく人の善悪をわかりて人さまにとかたそ
けるのなくてあるゝ人もその事ふなれくあり給ひ弘ぬ
学ゆへ名仏佛と神との境界を取て一ひ貝とあらぬ
善とゆふけく猶のうちなる事しるし事ハ悔こしにおつまし仁
事なりかくあるのつらぬ人をなうけりと世それからまるゝおゆる
こさ川の月のゆらんの手十の中ひろさてもあかれたゆくさ
喜平といひ人きたやたるときなるの人きとはとやかしとみあらさとも
やうとかりら官にしれたて下の人おとるしはふいふやうさまへ
とらやりかなるはもの方のうりとなくらく名参りまくる也
世のしらぬはおしき事もふくなるふれても何しくなら

さくともあまてとも物の上手に継ぎする事ハりまへぬことよのそくし
唐土の事も我おゆりなれしも流されていふ代あさへ悔しさ
事まで中にほう道自をまつくらしをもうくやなしけるハ蝿といふものの
塗めあらしたりとをさらくとかりゆきあられたゆる徒くもから事
行なりたるくなきこうや唐土ともはしきりくたなりしてハ盛まかり
河門とある周公旦をていふ此聖人の名で多く国とおさらゆ
そし代わりさ弟の二人ありて謀事せられさはつまいらう
おかりして去ゆきけられさこをの時西風りつく世事さはりく
名す成王も昭王と枕をひの事とも起きしゆる周公旦成王
の文武王の命とかりしまいふ新書をもの中かとりもえあ
されて流奏したるゑ二人をも誅きしれてやゑてゆうえ
けるとくもたゆらへ人をかりけりこえもらひてわまち世にゆくしき
流されし源氏の大将流罪の思居思ひあるなるのそちおて

浅摩ハあつされ給ひし時両風ゆきて世さハかしくてめしく
されし事ハこの周公旦の例をも讒言ならいけて吹さあらさして
いちしるき女のさハりかし比聞しられたまへはあるひハまた
也延喜帝も時平の大臣乃讒言によりて小野の宮すら咲
たりし也義経の時も梶原景時か讒言によりて
あまたの人失はれ給ひぬ是等はよく〳〵京時も
讒言するもの聞よりけれ人のありし事ハ行うへきも
讒言するものハ人にそひいひまさくうしなひけれハ
よろこひけれハ此事ハ常に心得へき事なりき讒言の
もの可承くしくあらさるやう仕るへき事にて
あさましきもの讒なり甲斐やの讒言なるくにやさしけれハ
ミなる事ハ思ひなからはまし其中国の政の為めハ
非理も出来るましき事也是ハ慎みてさからふへき也

また申さハ日本の事かく記しおかれ候はねハ世の常のおもふ事なるも
ちんそうけられ候ぬ事也拝む事いかにもしらるへき事にて
もしはあやまちたる事ハいかにもおもひて世にもさしこそむ
世のあらひ名利おもひさる事かなし官位も有しく官位を
おもひし後もいかにもかくつましくその何かに人の心にも住ひまいらせ
すまし事ハつゝしみてひかへめにしてこれを思ひてはかなきひとにも
まゆひさへらはかりにもよりくきへしひとに心さし
大凡その人への盗人なとやからハ我か物をもつてをゝきな
世の中にとかく事ハまいりかへし業ハよそにもちまち
むかしも人ハ思へかましかれも心をかけりし
まつなものをたのまれは申さるものもあれは事ハおもハし
心得ましき事けらひさても人々に御さうのみちかの事ハ
あひましけれハ浅深をよく〳〵うけつゝめさるへきも又

終ゆくまゝ人の道にも志つゝきて万よくなる事れ
あまんすなれはおのくゆるやはらかにしてうけるところ
文をやまつりのためにつかふる事なれはやすらうり
及ひてまことにしたかひてとをさるにするかたはらのとなかりしかく
まやちゝ道をはなひ志ゆさなる藪よおりゆる事しや
ごとくたゝひ物まて結さるゝわりし人として世の人をおもひ
志をさはとありさまもし韓信といひし人わかくいやしさく
まつしかりしは鋤をとりけるにや浦ちかきところにつりして
うゑたりしをあはれみて手ありしかは漂母か飯をあたへしに韓信のちに
ちつよりしこさいく國の管領かなふなりて漂母の家にいて
むかしの恩をむくいのさしたまへる
漁人やけるたゝいま此ちかきにかへる
らもまゝ報せんとゆくしかはさらに千金を与へ

すなはちしてその恩を報ゆる韓信も一飯のめくみをわすれぬも
やさしき事漂母の人のなさけも深かりけるにこそ
傳へ聞く一飯をめくむは人にすくれたる心の中に
我かしこき女にありしなりけれはかならすあらはるゝ世に
あらはれてむかしのわすれぬ事かな
わすれぬることをあらはすなれは人なとには
ましてわれも人も世のなかにうまれて
ねかはくは世にやすからぬ事はり虞舜は
民を治めし位によりて民のいとなみ
あまねくもの人をもつとめ
まことにやもとめ人の
久しくもむかし大臣
ありてその位にある禄の

たゞ事はなしもとよりさかしきものは口かろくして物ねたみも
ねたみのふかき事は常にはあらさる事にはたゞ思ひて上下の
まさに成すけるましくこれはやいくらもゆゑに事は世にもまれ
いにしへよりてはきこゆれはいくくはるゆゑ又のなかみなとよく
いさしく見ぬは何さなり思ひはいはれとも執着もなきしも人
後にはいはんも口いさ申す清浄にして論なくたましひも人の
はらはいか嫉妬ふしいふさんも一旦の嬉しさも人の心
にふを能くいへるはしくらん人は嫉妬をいうかりつくの
もたゞる事にてはなはされさもえのはいひけるはいふかさるとさ
もいへるはいかにとるもさはされまくさくはなはしと唐の文章
三史五経をもてはしてそ聖人をもおしえられてつしみ
人のまつねなくとまてはなる道なし事をしらぬき
ともかれのうえなくしてもかくかきたりしは女房たち

すさ人なとのたゞ見ぬ中はゆめまはら人乃おもしくは聖人なりとそ
これは獣のたくひ麒麟ならてはまくは鳳凰のたくひすくなくて世
ありしものとくゆゑはされる人もおほくはおしえられもなかくはしめて
申くしもさむらふ 尭舜夏禹殷湯文王武王周公旦孔子なと
遠きいにしへにしは聖人と世にもゆるす人もあるにや さるを
たゞかうに聖人をするとてぞ見るなれど そのかみの中にも聖人とて
此御子太師なとはすくなくやさしきものなれは聖人と申すの人を
若いけるもあらくて此徳もいさゝかも見えしらぬもの日月に
徳とならふ事さのこの世にはまれ中にもよく見るものにこそ
常にはまつ賢人を君子たる人をもえらふこれはいはゆる伊尹の臣をなる
といふ事もしらて宰相にも無人にはと見ゆ
その人をおはしまし聖にはおもふ事はなくても此心を
道ありともさらにそもなきもの人を為と思うらは

文武ハとりのつはさ車のわのことくかたかたかけてハ成らぬ事也
されはそのいつれをもすてかたき事もあるへからす
事ならへとも其道ニ不背して武はかりにて士たる人を
からむとするかれこれはさらにあるへからす此ことあるへき
まひなひのみにて朋友の交をたえてしれはそ
えらひわけさはきをたたしくおさめの事料はからの
罪をもおかれ其分にたりたるか罪にはならぬとねまらて
武道をそしりたる事あり国を治るは賢人君子也
今世の武士を殺することをしらぬ人なきにもあらさるへも
いされはくさりやこれらの事もなたきよりいはす
しかれはそのをこしの人も伴計をもなたらけまても
武士をきらいさとちからをもはしれはほとに
来られしてれのすしに及はせしいふ人はされしたりの

かすらむそらたせは武をくらへれ人をも中なきにさたこえれ
代をもちあへる人にて中ハ末の世には是人まくあるへし
唐土の文をもみくるに国をはしるなるゆゑはしれの人ハくふに
なりゆくもとおもひてもよんて国のまるりをまもるなり
むかしにもそちもなふ事をあるへからは五百年に一たひ聖人
おほくしかしなからそのあれともおめしはひかしめしけいさん
はちまは文学いうしてのやまめの事とおもうは人をそれは
よろしきは治のこれ事はあるはしさなきたりひかもちるね
人をおもふは無ものなくして理をきくてもしる学文をすることは
中人はいかは武学はありとも道理をしらぬたらんは武士ともいひ
学文を知人をうしなひしを乱るもおもしらん中栄の政
乱代をすくはる事もすへて文武のもとなれはる事はなしかし
よそつね貞観政要御式條なとハ國はかく武おほく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よのうまれハ義勇をそくね事しかや中のほいり様も中々
りふうひさらかくゆる事すれともつらは日本国は女がく
女の智恵けくこゝまゐり天照太神を女躰まてわたらせ給ふ上
神功皇后ハ中ゆりし八幡大菩薩の御母にておはします様を
まふなう新羅百済をせめなさひしてはあつらかなと
給ひこそんらは絶食のたえ后ハ小のゝ尼二位殿に二代将軍の
母として大将の権をとりて給食を営なされいかさくく奴役を
しかは取名をもられのえもは二位殿の御らく乱世も流
大名すや知られしさまは女とてあるつりゝふいあつらは
女躰のことはのしてわれしも給ひきておはく給ひら
くも女ゝふ口しとうも人のたうしに左くもまうらゆふ儀式
まゝかし又男女中にいらさる事ともい覚御意ありこゝ給ひら
中様也いらぬ又中に女とかるらの悪敷きかはくらあるおと

つまゆるへてまもいかにゆうくらまし人をて絶いへてられもも
さうらくはらのへんもしゆるへ名れ上まし、しれまし
女男もかもうらし口りきに心あるる理を知らくしよう
あるはなすもいかうし事ふてゆうらやさうれもいへるむかしの
つさいのえりんならはいふまいかへやりま当の事ハ知識
といふ文字をもいとも行らは我意猛知りなし中人の書き
もゆるいと翁さ事あるいらたゝるかのらもしのて人をも
のもそるいにゆくの流をも行くいくらぬしとのは
ある又柱道くて柔りしもの事なし事のはうは理は
なる事のあるしか矢なら人は約といふ事のそりゆう
取りし取名のへられの時役当のなのけて人とも武に為と言
をかすしそれ我討始以も叱りらましい陶やかれ幽しやれ
弁も無とありて鄙清なるの中し其約をし道とも一様なる

[illegible]

牛の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]人のことを[illegible]て傳まゐらすふ
[illegible]なれども[illegible]なし思
[illegible]貴殿の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文政十二己丑年七月廿六日写之

越智直澄